1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復しつつある」

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→

（注）8 年 10 月判断は、前回 8 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、緩やかに回復しつつある。生産活動は、輸送機械などが減少しているものの、化学や電気機械が増加しており、持ち直しつつある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項　目	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	**持ち直しつつある**	↗
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	**緩やかに改善しつつある**	→
設備投資	8 年度は前年度を上回る見込み	**8 年度は前年度を上回る見込み**	→
企業収益	8 年度は減益見込み	**8 年度は減益見込み**	→
企業の景況感	「下降」超幅が拡大している	**「下降」超幅が縮小している**	→
住宅建設	前年を下回る	**前年を上回る**	↗
輸出	前年を上回る	**前年を上回る**	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、ホームセンター販売は、前年に比べて雨の日が多く、梅雨明けも遅れた影響から客数が減少したことなどにより前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は、梅雨明け前の気温が前年を下回って推移した影響からアイスクリームなどが不調で、前年を下回っている。家電大型専門店販売は、猛暑や 9 年 4 月の省エネ基準引上げを見据えた買替需要を背景とするエアコンの好調などから、前年を上回っている。百貨店販売は、高額品、冷感寝具、催事の好調などから、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、新型車効果などから前年を上回っている。このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 前年に比べて雨の日が多く、梅雨明けも遅れた影響から客数が減少した。また、中東情勢を背景としたまとめ買いの反動から、ラップやごみ袋など一部の日用品が6月以降は低調に推移している。（ホームセンター）
- 販売促進施策により揚げ物が好調であった一方、梅雨明け前の気温が前年を下回って推移した影響から、アイスクリームや冷やし麺などが低調だった。（コンビニ）
- 猛暑や9年4月の省エネ基準引上げを見据えた買替需要を背景に、エアコンが好調だった。また、携帯電話は、価格上昇が続く中でも定期的な買替需要により販売台数が堅調に推移している。（家電大型専門店）
- 価格上昇が顕著な生鮮食品が低調となっている一方で、ラグジュアリーブランドを中心とする高額品、暑さ対策商品の冷感寝具、物産展などの催事は好調だった。（百貨店）
- 自動車販売は、軽乗用車が新型車効果の一巡などにより前年を下回る一方、普通乗用車等は新型車効果などから前年を上回っている。（自動車販売）
- 物価高による旅行控えは特段みられず、観光需要は堅調に推移しており、客室稼働率は高水準が続いている。（宿泊業）

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

化学は、中東情勢の影響による原材料の調達環境が改善したことなどから、増加している。電気機械は、AI サーバー・データセンター向けを中心に半導体需要が好調なことなどから、増加している。輸送機械は、海外向けの出荷を調整したことなどから、減少している。汎用・業務用・生産用機械は、海外規制に適合した新製品への切り替えに向けた在庫調整などから、減少している。鉄鋼は、建築向けの需要が低調であることなどから、減少している。このように、生産活動は、持ち直しつつある。

- 中東情勢の影響による原材料不足から生産調整を行っていたが、足下では調達環境が改善し、生産量は増加傾向にある。（化学）
- AI サーバー・データセンター向けの半導体需要が好調であるほか、自動車やスマホ向けの需要も堅調に推移している。（電気機械）
- 新型車の投入効果により、国内外の需要は引き続き堅調に推移しているが、海外の一部市場向けの新型車販売に備え、足下で海外向け出荷を調整した。（輸送機械）
- 海外規制に適合した新製品への切り替えに向け、従来製品の在庫消化を進めたことなどから、生産量は減少している。（生産用機械）
- 人手不足などの影響により工事が長期化し、施工の進捗が鈍化していることから、建築向けの鋼材需要は低調に推移している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに低下しているほか、新規求人数は、前年を下回っている。一方、法人企業景気予測調査（8 年 7-9 月期）の従業員数判断 BSI でみると、製造業・非製造業いずれにおいても前期に比べて「不足気味」超幅が拡大しており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 人手不足を背景に、費用をかけてでも人材獲得に取り組む企業もみられ、民間求人サービスの求人数は増加している。（人材・職業紹介）
- 今後の増産計画を見据えて採用を強化しており、特に高専との連携を重視し、授業への講師派遣やオープンキャンパスへの協力、インターンシップの受入れなどに取り組んでいる。（生産用機械）
- 外国人材の育成を進めるほか、スポットワークも継続的に活用しており、工場運営を支える人材確保の手段として定着している。（小売業）

■ 設備投資　「8 年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、「非鉄金属」などで減少するものの、「化学」、「自動車」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

○　非製造業では、「鉱業・採石・砂利採取」などで減少するものの、「電気・ガス・水道」、「金融・保険」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

➢ 成長事業の強化を目的として、製造設備の新設を含む生産能力増強投資などを予定している。（化学）
➢ 発電関連の大型設備投資を予定している。（電気・ガス・水道）

■ 企業収益　「8 年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　製造業では、「繊維工業」などで増益となるものの、「化学」、「情報通信機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

○　非製造業（除く「電気・ガス・水道」、「金融・保険」）では、「情報通信」、「建設」などで減益となるものの、「小売」、「学術研究・専門・技術サービス」などで増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感　「『下降』超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」8 年 7-9 月期

○　企業の景況判断 BSI は、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設　「前年を上回る」

○　新設住宅着工戸数でみると、貸家が減少しているものの、分譲住宅、持家などが増加していることから、前年を上回っている。

■ 輸出　「前年を上回る」

○　輸出（円ベース）は、自動車、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、北米などで増加している。

　なお、輸入（円ベース）は、原粗油、銅鉱などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、大洋州などで増加している。

3. 各県の総括判断

	前回（8 年 7 月判断）	今回（8 年 10 月判断）	前回比較	総括判断の要点
広島県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	**持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている**	⇨	個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
島根県	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	⇨	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
岡山県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
山口県	緩やかに回復しつつある	**緩やかに回復しつつある**	⇨	個人消費は、回復しつつある中、一部において一服感がみられる。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。